

明確な数値目標を掲げた学力向上施策を推進し、 自分の力で夢をつかめる子どもを育成

新潟県 柏崎市教育委員会 教育長 **近藤喜祐**^{よしまさ}

こんどう・よしまさ 新潟県の公立中学校教諭を経て、新潟県教育委員会指導主事、柏崎市教育委員会学校教育課課長、柏崎市立中学校教頭、校長を歴任。2019年4月から現職。

教育・文化都市の再興を目指し、 学力向上プロジェクトをスタート

本市は、新幹線の駅を有する上越市と長岡市の上に位置するため、他地域への流出による人口減少や、原子力発電所の運転停止による歳入減少などへの対応が課題です。一方で、教育や文化の振興に力を注いできた歴史を持ち、知徳体のバランスの取れた教育を重視してきました。子どもは落ち着いた環境で学びに向かい、学力もかねてより比較的高水準を維持してきましたが、文部科学省の「全国学力・学習状況調査」では、知識・技能の定着において全国水準を上回るものの、活用力や応用力に課題が見られるようになりました。

これからの社会を生きる子どもには、多様な資質・能力を身につけることが求められます。その中にはテストで測りづらい力もありますが、この先の人生では入試や検査、資格取得など、多くの場面で目に見える結果が求められるのも事実です。そこで、活用力や応用力などに見られる課題を克服して、培った学力が確か

な結果として表れるよう、2021年度に「学力向上プロジェクト」を発足させました。本プロジェクトは本市を教育・文化都市として再興させるねらいも大きく、予算面を含めて市長の積極的な後押しを受けて、2022年度から本格的に実施していきます。

「サテライト授業」で個別支援の 充実や授業力の底上げを図る

本プロジェクトの柱の1つは、授業改革です。学校と教育委員会が一体となり、子どもが主体的に考えて粘り強く課題を解決していくような学びの創出を目指します。

これまでは、8人の指導主事が各学校を訪問し、学校運営全般を支援してきました。2022年度は、ICTの知識が豊富で、研究開発校に在籍経験のある現任教員を加えた9人体制で、授業づくりにおける各学校の課題を踏まえた支援に力を入れていきます。必要に応じて、指導主事がチーム・ティーチングで授業に参加するなど、授業改革にさらなる重点を置いた学校訪問を行います。

ICTも、授業改革における重要なツールです。1人1台端末の環境の下、あらゆる場面で協働学習支援ソフトを効果的に使い、「協働的な学び」の充実を図ります。

「個別最適な学び」の実現のためにも、ICTは欠かせません。これまで本市では、学力に伸び悩む子どもへの支援を手厚くする一方で、より高い学力や意欲を持つ子どもを十分に伸ばし切れていないという反省がありました。子どもの「もっと学びを深めたい」「上の学年の学習にも挑戦したい」といった思いをくみ取り、さらなる高みを目指せるようにする意味でも、学習支援ソフトを有効活用する方針です。加えて、デジタルドリルなどによって、授業と家庭学習の一体化も進めたいと考えています。

さらに、本プロジェクトの事業として、2022年度中に「サテライト授業」を開始することも検討しています。これは、指導力の優れた教員が行う授業を、市内の他校にもオンラインで配信するもので、子どもがサテライト授業を受けている間、担任や教科担当が机間指導で個別に手厚い支援ができるようにします。子ど



もの学力向上に加え、特に若手教員が優れた授業構成や指導法を学ぶことで、授業力の底上げにもつながることを期待しています。

学力向上策の効果検証のため 児童生徒に学力調査を実施

本プロジェクトでは、「3年間で、『全国学力・学習状況調査』等の全国平均・県平均を3～5ポイント以上上回る」という明確な数値目標を掲げました。これは、前述したように、子どもや教員が目に見える結果に向けた努力をできるようにするため、あえて客観的な数値を挙げており、覚悟を持って明示しています。家庭学習の充実にも結びつけようと、数値目標は保護者にも発信しています。

そして、学力向上施策の効果検証を行うため、小学1年生～中学2年生の全児童生徒を対象に「総合学力

調査」を実施しています。応用問題が多く、学力の高い都道府県も受けている同調査の結果から、学力の経年変化を分析し、授業改革につなげたいと考えています

さらに、一人ひとりの確かな成長を支えるために、特別な支援を要する児童生徒への対応も重点施策に位置づけています。具体的には、教育委員会と首長部局にある子ども未来部が連携して個人のカルテ「すくすくファイル」に子どもの情報を集約してきました。就学前を含めてどのような支援をしてきたかを引き継ぎ、校種や学年を超えて情報を共有し、指導や支援に活用しています。

市内における特別な支援を要する児童生徒数は、13年前に比べ、小学校で2.5倍、中学校で2.3倍に増えています。そこで、市独自に配置する指導補助員や特別支援学級介助員を増員し、特別支援教育などの充実を図っています。

自分の夢をつかみ取れる 子どもを育む

以上のような施策によって目指しているのは、それぞれが自分の個性やよさを伸ばしながら、しっかりと学力を高めて、自分の力で夢をつかみ取れる子どもを育てることです。

以前、中学校校長を務めていた頃、全校集会でそうした趣旨の話をしたことがありました。昨年、当時の生徒が大学生となって教育長室を訪れ、「あの時、近藤先生が話されていたように、勉強を頑張ることで夢をかなえられることが分かりました」と、伝えてくれたのです。その言葉を聞き、私たちが教育に込める思いは間違っていないと感じました。子どもの可能性は無限です。学校卒業後も、強く、優しく成長し続ける子どもたちを育てるため、これからも惜しみない努力を続けていきます。

新潟県柏崎市 プロフィール



◎新潟県のほぼ中央に位置する。南西部から東部は^{よねやま}米山や刈羽黒姫山の山系とその支脈に囲まれ、北西部の海岸線には15か所の海水浴場を有する。7基の原子炉を擁する柏崎刈羽原子力発電所が隣接自治体をまたいで設置され、関連産業が発展。自動車や電化製品の部品を製造する中小企業が集積し、ものづくりの町としても知られる。人口 約8万人 面積 442.03km² 市立学校数 小学校20校、中学校11校 教員数 約500人 児童生徒数 約5,300人 電話 0257-43-9132 (学校教育課)